

大人計画ウーマン・リブV01.2 すぶぬれの女

1997年9月10日〜17日 下北沢ザ・スズナリ

キャスト
カリモト……………阿部サダヲ
カナル……………正名僕蔵
イマホリ……………金子清文
ユリ……………田村たがめ
錠……………宮藤官九郎
トク……………飯田孝男、宮藤官九郎、金子清文、
……………阿部サダヲ、正名僕蔵
ミズエ……………新井亜樹
アサコ……………猫背椿

スタッフ
作・演出……………宮藤官九郎
舞台監督……………樺澤諭志
照明……………佐藤啓
音楽・音響……………半田充(MMS)
舞台美術……………野口毅
衣裳……………田中亜紀
写真撮影……………滝本淳助
宣伝美術……………吉澤正美
イラスト……………篠崎真紀
特殊メイク……………直井雄一(Youch Effects DESIGNS)
映像……………藤田秀幸
スライド文字……………坂本千明
大道具製作……………CICOM
小道具……………高津裝飾美術株式会社
演出助手……………大堀光威
制作助手……………河端ナツキ
制作……………長坂まき子

あとがき

これは、漫画家の久住昌之さんの『脳天観光』っていう本の中の、頭を開けて刺激するとそこに入ってる記憶が出てくるっていう挿し絵を見た時に「面白いこと考えるなあ」って思ったんです。それで、そういうことを普通にアパートでやってたら面白いんじゃないかと思つて、こういう設定にしました。『ナオミの夢』の時に、取材という名目で、神経症のセミナーに行つたんです。その時に、精神病未満の神経症と呼ばれる人たちに話をいっぱい聞かされて、それも題材につかえないかなと思つて、で、そういう人たちがアパートに住んでるっていう話を作ろうかなと。

猫背(椿)さんの役に関しては、モデルになる人はいないんですけど、その頃ストーカーみたいなことが言われ始めてたんで、そんな感じでやったらどうなるだろう？って思つてやってみたらいいです。その時猫背さんはNODA・MAPに出てあんまり稽古に参加できなかったから、そんなに出番多くできないだろうなって思つたんで、最初はずつと出てこないけど、途中からグワイッと入つてきて話を引く張るっていう役にしました。それが結構はまったんですよ。猫背さんも最初は抵抗があつたみたいなんですけど、人前でオナニーしたら面白いなって思つたんですよ。そのシーンだけ細かく演出しましたね(笑)。猫背さんほどかっこよくオナニーする人はいないです(笑)。女の人がオナニーして笑えるっていうのは難しいですよ。

この時、発見の会の飯田(孝男)さんに出てもらつたんですけど、とにかくセリフを覚えられない人でしたね。一生懸命、稽古中も台本読んで、僕が言ったことも全部赤ペンで書いて空いた時間でセリフの練習してんの、そこまでやつてんのにセリフをまだ覚えてないっていう。何も言えないですよ(笑)。「お願いしますよ」ってか言えないじゃないですか。どうしていいかわかんなかったです。本番はさすがに覚えてたんですけど、発見の会の芝居だと飯田さんがセリフを忘れるっていうのも込みでお客さんが楽しみにしてる場所があるから、発見の会の人を観に来ると、「覚えてたらあんた面白くないよ」とか「あんなにちゃんと覚えちゃダメ」って言われてましたけどね(笑)。でもね、毎日小屋入つて、頭からケツまで舞台で自分のセリフをやるんですよ。そんな人初めて見ました。それでも本番危ういんですけど(笑)。

女の人が三人出てたっていうのが精神的にきつかったのを覚えてます。新井(亜樹)さんって僕の芝居に合わないかなって思つて、敢えて呼んだんです。本人はすごいちゃんとやってくれたんで、合わないなって思つてた割には合つたとは思つたんですけど。猫背さんが最後暴れるところは、ケガしたら危ないからすごく稽古しましたね。あと頭開けるとか、このころは結構大変なことをいっぱいやってましたね。やりたいことがいつも一個か二個あつて、それをどつやたらできるかなっていうのを毎回考えてるんです。あんまり言いたいこともないし、言わなきゃいけないこともないんで。

ウーマンリブの時は、わりと部屋っていう考え方をするんですけど、でも実際にはそんな部屋はないというふうな、ギリギリの感じのリリティがいいなと思つてるんです。人がやるのはいいんですけど、僕はお茶の間とかそういう所にはあんまり興味がないんですよ。説明が必要な空間が好きなんです。そこに人が入ってきて、だんだんここがどこなのかのわかるぐらいの感じがいいなと思つてるんです。「ナオミの夢」の前をやつた『熊沢バンキーズ』(95年)っていう野球のお話があつて、それで人の入れ替わりみたいなのを初めてやつたらすごく面白かつたんで、ちょっとしばらくこういうのもいいなあって思つたんですよ。あんまり誰かの部屋とかいうよりは、口ビームみたいな、人が集まる場所が好きなんです。僕が中学、高校の時に僕の家がそういうたまり場みたいな感じだったんです。ちょっと離れたところ、部屋があつて、僕がいなくても誰かいるっていう。そこでみんなすーっとテレビ見てましたね(笑)。何するってわけでもないんだけど、帰らないんですよ、とにかく。みんな家じゃないところにいるかたつたんでしょうね。だからウーマンリブって言うときは密室というか、人の出入りが多いところにしようと思つたんです。